

うつのみや路物語

宮ストリートストーリー

路の数だけ物語がある。
うつのみやの路を紹介します。



元宮の橋商店街
会長
釜島 光男さん

大通り ～宮の橋～

JR宇都宮駅西口から真つすぐ伸びる大通りは、宇都宮のメインストリートです。その入り口に、「宮の橋」が架かっています。駅を出るとすぐに見えてくるこの橋は、県都宇都宮の玄関口といわれています。その宮の橋が、左上の写真の通り、最初は木の橋だったことをご存じでしょうか。



▲大正初期の宮の橋

宮の橋はJR東北本線宇都宮駅が開業した翌年の明治19年(1886年)に架けられました。長さは30メートル、横幅は15メートルの橋でした。木で作られた橋であったために、台風などの水害で何度も橋が流されたそうです。橋の流失が度重なったため、明治42年(1909年)ごろに、欄干に鉄材を用



▲現在の宮の橋



いた橋になりました。さらに昭和32年(1957年)にコンクリート橋に改められ、平成7年(1995年)に今のような橋になりました。私の父も洪水の被害に遭い、家にある、背の高い古時計の土台が流されてしまったと聞きました。しかし、宮の橋に助けられたこともあります。私の母は宇都宮空襲の際に、橋の下へ逃げ込んで一命を取り留めたそうです。私自身も、夏に釣りや川遊びをしたことが子ども時代の思い出として強く印象に残っています。改めて、宮の橋を見に、散歩がてらに歩いてみてはいかがでしょうか。